一身田の新聞
発行
一身田地区
社会福祉協議会
編集長
岡本博和

令和3年度が始動、地域の諸団体の活動予定は！
卒業・退職・退任　各々の想い
みんなの広場　私が住んでる西之町はこんな町だった

令和3年度が始動

一身田地域の活性は？　「ムラ」の維持は？！

令和3年が始動した。コロナ禍は2年目となり、我慢の限界に達しようとしている。盆踊りや寺内町まつり、町民運動会、球技大会、敬老のつどいなど「集まる」ことが憚（はばか）られ、あるべき姿・形が無いのは何事にも代えがたい。これでは「ムラ」は維持できそうにもない。一身田地区の自治、社会福祉、健康など担っている方々に、令和3年度の活動方針をレポートして頂いた。

コロナ禍における自治会活動について

一身田地区自治会連合会　会長　岡野勇治

昨年からのコロナ禍により各種団体主催による伝統的な行催事が中止、又は規模縮小に追い込まれました。

これら行催事を通じて、先祖の代から営々と築き上げられてきた「一身田の絆」が分断、瓦礫化されるような思いで不安、寂しさを感じ続けて来た一年でありましたが、コロナ禍によって「人の温もり、思いやり、励まし、助け合い、当たり前と思っていた些細な日常生活対する感謝、たわいもないと思っていたことに対する感激！」等々を忘れていることにも気づかされました。

この4月から新体制をもって、自治会、各種団体の諸活動が展開されていくこととなりますが、コロナ終息の兆しは見えず、関係者におかれましては難しい決断、判断に悶々とされていることと思います。そんな時の昨年末、某団体のA氏から「感染防止対策を徹底して、やれるものはやって行こう待っている人も沢山いる」との勇気ある発言があり、執行部では熟考を重ね、町民の皆さまの期待が大きい人気イベントを一年越しに実施することとなりました。参加者の安全確保に万全を期すには、人手、経費もかかり、また、多少体調に不安があっても参加したい方が見えるやもしれず、断わざるをえないケースもあり得ることも想定されました。

しかしながら、「ウイズコロナ！」を現実のものとして、相応の困難を乗り越えた安全で安心できる行催事のあり方、「アフターコロナ」を見据え、町民の皆さまがこぞって参加頂けるような行催事のあり方を真剣に模索すべき時機が既に来ていることを認識して、一丸となってまい進していきます。

一昨年は、あんな事こんな事が行われていました。

令和3年度の事業計画立案に際して

一身田地区社会福祉協議会　会長　望木幹雄

一身田地区社会福祉協議会の令和3年度事業計画の立案に当たり昨年からの【コロナ】騒動が終息していないことを考えればどうするのがベストなのか悩みが尽きないところです。

昨年は盆踊り大会、敬老のつどい等ほぼ全ての行事が中止のやむなきに至り断腸の思いでした。先日も臨時役員会を開いて事業計画について審議を致しましたが、現状では7月末までは おそらく事業の実施は無理なのではとの見解が多数派でした。

しかし、年中最大の行事でもある「盆踊り大会」と「敬老のつどい」は時期が8月以降でもあり、実行したいと云うのが本音です。

今年の事業計画は開催を前提として立案し、状況に応じて弾力的に対処せざるを得ないものと考えております。

何でも全て自粛と中止の連呼で世の中は沈滞ムードですが、昨年公開された映画「浅田家！」で、津市も高田本山も少し賑やかになったようです。

我々も無心に笑うことが出来るものをと先日の「寺内町の館運営委員会」で、新規に【笑顔の写真展】をやったらどうかと提案させていただきました。

これは子供から大人まで、とにかく大笑いしている写真を出品してその出来映えを競うものでいま話題のデジタル化を利用したインスタグラムで応募してもらえたらと考えております。

会場は寺内町の館とし、今年の新規事業として連合会、商工会、老人会、婦人会にも趣旨を説明して皆で共催しようと話し合っているところです。

コミュニティバス4月1日より運行

4月1日、午前8時18分、コミュニティバスは高田本山前に初乗り入れ、高田本山、自治会、商工会、ホッとガイド会婦人会、老人会のメンバーや一身田マスコットキャラクター「しん坊君」等が「歓迎津コミュニティバス」の横断幕を掲げ歓迎式典を行い、初乗りを祝った。

運行日は火・木金の週3日

時刻表は右記QRコードで見られます。

地域福祉と民生・児童委員

一身田地区民生委員・児童委員協議会　会長　岡　恒文

「皆様こんにちは。お元気に毎日をお過ごしでしょうか？」、我々二十五名の民生委員・主任児童委員は新型コロナウイルス感染症が脅威である中創意工夫し、地域の様子を把握、特にひとり暮らしの高齢者や児童の見守り活動を続けています。

さて現在の、国の福祉施策は「近所の希薄さをなくし、地域共生社会の推進」を地域での取り組みとしています。

少子高齢化が進む中一身田の高齢化率は26％（津市38％）です。例えば私の住む豊野団地でも40％ですし、高齢のひとり暮らしが増加する現実があります。

そのため、「誰もが笑顔で安心して暮らせる地域づくり。」「さまざまな課題を持つ人々を笑顔にする地区に」。私たち民生委員・主任児童委員は皆様方と伴に地域作りに邁進したいと思います。「心配ごとは相談ください。」秘密は守り適切な関係機関等による支援へご案内します。

一身田地区体育振興会活動、昨年と今年

一身田地区体育振興会　理事長　村田定利

自粛、自粛の一年だったことから昨年は、予算的にも余裕があり小学校南運動場にある倉庫の塗り替え工事をしました。立て替えてから10数年ほど経過したことと隣接する防災備品備蓄倉庫と連動して有事の際の活用も兼ねるため施工しました

今年度は、コロナ禍の中、オリンピックを挟んで、春と秋、いかにリスクを少なくした事業ができないか模索しています。例えば、

・歩こう会：多くの自治会等の実施状況からより安全な種目と思われます。

・町民球技大会：参加者も特定でき、今後の感染状況で実施の可否を判断します。

町民大運動会は、不特定多数の参加や用具等の接触などを想定すると不安な要素が多く、難しく思っています。

＊ところか国体への協力

当面、5月9日一身田地区での「ウオークラリー」への参加を呼びかけます。

また、9月からの津市会場のボランティアに賛同します。

楽しみがどんどんなくなっていく昨今、コロナにどう向き合っていくか問われる一年になりそうです。

体育振興会として、皆様とひとときの潤いを堪能したいと思っています。ご協力のほどよろしく願います。

ボランティアガイド

一身田寺内町ほっとガイド会の現況

一身田寺内町ほっとガイド会では平成十四年から二十年近く寺内町や専修寺のボランティアガイドを続けており、市内外からお越しのお客様を案内しています。

特に平成二九年十一月の専修寺如来堂および御影堂の国宝指定以降は、県外からの団体ツアーをはじめ来訪者数も格段に増えていましたが、昨年度の案内実績は、年初からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて大幅に落ち込み、前年度比約八〇％減の八四〇名となりました。感染拡大が一段落した夏期には専修寺の定時ガイドツアーを中心にガイド依頼も戻りつつありましたが、第三波と言われる感染拡大に伴う移動自粛により、年明け以降はお七夜さんも含めてまったくの開店休業状態でした。

そのような厳しい一年間でしたが、一身田小学校の児童や高田短大のゼミ学生などへのガイドを通じて、若い人たちが地元を見直す機会に関われたことは大事であったと思います。なお本年度は新しい会員三名を迎え入れてガイド活動に一層励んでまいります。

一身田は見どころがいっぱい。寺内町の高札跡地をガイドする

みんなの便り

「ボーっと生きてんじゃね～よ」とチコチャンに叱られる

一身田地区老人クラブ連合会　会長　鈴木良次

今年も「別れ」と「出会い」の春を告げる『桜』の咲く季節が来ました。町は、コロナウイルスの感染防止の観点から、「あれも中止」「これも中止」の行事でした。コロナで先が見えない不安から、どこも行けず、足、腰が弱り、更に、気持ちが萎えることで、大変な一年でした。これから先は「チコチャン」やA1（人工知能）に聞かないと コロナの先が読めないのでしょうか。

「一寿会」はこれから超高齢化時代を迎え、**「つながりつくり」**を目指します。

一身田地区の人口は1月31日現在12、810人で、内60才以上が3，967人となり、人口の31％を占めています。これから更に、高齢者数は増加傾向にあり、「健康寿命」を延ばすことを求められています。「健康寿命」延ばしは**「つながろう」**がキーワードで、新しい創造、新しい意欲が生まれ、集い、学びから健やかな生活を維持させると確信します。

一寿会へ**「つながって」**会員になり、巣ごもらず、生きがいのある輪と和を広げましょう。会員は、「一寿会」の「友愛活動」「清掃奉仕」「親睦旅行」等数多い健康・運動の催し物に参加し人と人との**「つながり」**を持ちましょう。加えて、公民館の創造セミナーの「寿大学」を始め、38団体約700名の「趣味の講座」。社会福祉協議会の「寄せ植え」「サロン」「歩こう会」「敬老の集い」等の行事に**「つながってる」**ことが「健康寿命」延ばしに役立ちます。

一泊二日　親睦旅行　那智大社で

投稿　一身田・西之町の想い出

生まれ、育って90年

一身田・西之町　在住　武野薬局　武野喜夫

寺町通りをコミュニティバスが通るといふ記事を見た時、小学生の頃、一身田の狭い町中をバスが通っていたことを思い出しました。

その後、岡本博和さんと雑談の中で、「西之町今昔」としたものを書く話になり、九十年住み慣れた西之町の事を記録として書いてみようかとなりました。

昭和3年　西之町青年団の祝勝会

西之町には小売業から製造業まで多くの店があり、西之町にない業種はないのではないかと言われる位でした。記憶をたよりに書いてみます。

東組から陶器(森川)、石屋(松田)、八百屋(八百秀)、指物(加藤)、穀物米(政井屋)、古市クリーニング店、畳屋(藤井)、味噌醤油(松井屋)、衣料(細野)、池部歯科、菓子(池田屋)、石丸自転車店、指物(平松)、伊藤金物店、荒物(井田屋)、履物(忠五郎屋)ガソリン(平野屋)、川村薬局、一方水道ポンプ、洗い張り(奥田)、駄菓子屋(横山)、銭湯(なかね湯)、田中牧場、書籍タバコ(井ノ口)、蚊帳染め(伊藤)、北村理髪店、今井醤油、鬼頭ふとん店、八百屋(野崎屋)、シスター美容室、西尾印刷、武野薬局、以上です。

バスの事にもどりますが、一身田駅から西之町、橋向、中野を通って津までですが、終点は不確かです。

家の前へ赤旗を出しておけば停車してくれました。しかし、五才の女の子が死亡するといふ悼ましい交通事故がありました。

西之町が祭りの出し物でもよくまとまったのは「西栄会（せいえいかい）」といふ何年も續いている会があったからです。

「西栄会」には各家庭から主人(男性)が会員になり、商いをしている人も勤務の人もほゞ全員会員に入っていただきました。子供さんを海水浴に連れていったり、町内の掃除をしたり、一年に一度の一泊二日の旅行には多くの会員が参加し、親睦を深めました。その名残りは今も續いております。

西之町には野球チームがあり、胸に「ウエスト」と記したネーム入りのユニホーム姿の写真がありまう（はいまえ）す。コーチは向拝前の原さんと父より聞いております。

長々と駄文になりましたが、バスの写真、野球チームの写真、お祭りの時の全員集合の写真は平成16年一身田地区自治会連合会が発刊されました「写真で綴る一身田」といふ記念誌に掲載されておりますのでご覧下さい。

（編集者　注）西之町は本山山門より西側地域）

卒業

一身田小学校卒業式

コロナ禍のため、今年度の卒業式は簡素化され、卒業生、保護者、教職員のみの参加になりましたが、96名の6年生が巣立っていきました。

一身田中学校卒業証書授与式

3月12日、一身田中学校卒業授与式が行われ、154名に手渡された。

退職の挨拶

前一身田小学校長　伊庭　正彦

この3月で定年退職となり、一身田小学校長を退任することになりました。一身田小学校には校長として3年間お世話になりましたが、以前に平成20年から2年間、教諭として勤務し、ずっと昔には生徒として3年間通学したこともあります。私が60年生きてきた中で、8年間を一身田で過ごさせていただきました。

私は津市の南部から通勤していますが、県総合文化センターを過ぎると、二つの大きな屋根のある一身田の町が見えてきます。私はこの景色が大好きでした。

また、小学校の3階からは国宝である御影堂と如来堂の立派な建物を見ることができます。本校の子どもたちは、毎日それを眺めながら卒業していきます。世界に羽ばたいていっても、この景色と自分たちが育った町「一身田」を決して忘れないと思います。私もこの景色と一身田の町は忘れないと思います。

一身田の皆様、本当にありがとうございました。

退職の挨拶

前一身田中学校長　横山　徳浩

「さとく　やさしく　たくましく」154名の卒業生が巣立ちました。

3月12日(金)「サポーターいっちゅう」の方と生徒会役員で作成したシーバルク『一中生よ大志を抱け』のエールのもと、第73回目となる一身田中学校卒業証書授与式が挙行されました。

コロナ禍の中で、人と人のつながりの大切さを再確認した卒業生は、新たなステージで、社会を支える存在になるために歩み続けます。

これまで以上の温かい支援を地域の方々にお願いします。

退任の挨拶　「一身田」の魅力を再発見

前一身田出張所長(併任)公民館長　鈴木　達也

一身田出張所・公民館に3年間、勤務させていただき、地域の皆さんに大変お世話になり、誠にありがとうございました。

この間、施設の建設や駐車場の整備が行われ、新しい施設での住民サービスの開始や初めての文化祭の作品展示を実行委員会のみなさんと開催できたことなどが思い出されます。

また、一身田で開催される各種の行事に参加もさせて頂きました。

私は、一身田のお隣の河芸町北黒田に住んでおり、小さい頃からお七夜さん、買物、病院などで訪れ、この地域のことは良く知っているつもりでした。

しかし、盆踊り大会、寺内町まつり、凧揚げ大会など高田本山などの魅力を生かした行事が開催され、一身田の歴史・文化を再発見するとともに、多くの事業を守り・育ててみえる地域の方に支えられていることに改めて気づかされました。

本年度は、コロナ禍で開催できなかった行事がほとんどでしたが、来年度からの再開を祈っています。私も、是非参加させていただきます。

今後も新しく整備された施設が、より一層地域のみなさんに愛され、多くの方に利用していただけるよう、新体制で取組んでまいりますので、引続きご理解・ご協力をよろしくお願いします。

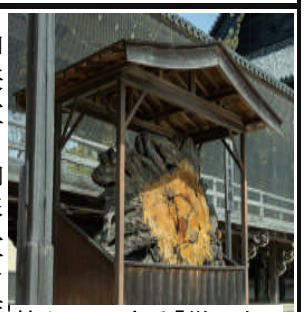
春の訪れ？！う～ん？！、へえぇ！

令和3年1月25日　カナヘビが小枝に刺さっていました。
大里窪田町　中西トキ子さん提供

シリーズ　本山をもっと知ろう！

勘六松

高田本山　専修寺　広報課　玉野　章法


静かに見守る「勘六松」

如来堂と御影堂を結ぶ通天橋前には、大きな松の根っこが安置されているのをご存知ですか？

如来堂を建立する際、基礎石搗（きそいしづき）の最中に、勘六というお爺さんが、胴突き棒の下へ飛び込んで、尊い犠牲になったと伝えられていて、いまも如来堂東南隅柱の台石に「寛保3年（1743年）亥季（いのとし）7月12日冥（めい）、本覚道元信士俗名勘六」と彫られています。

しかし、以前この話は信じられておりませんでした。

なぜなら、当時のどの記録にも記されていませんし、『如来堂御建立録』によると、この年にはもう柱立てが始まっており、この刻銘は柱の寄進銘ではないかとも思われたからです。

しかし、その後の調査で、如来堂の棟の梁（はり）から、「御石搗仕舞（いしづきしまい）寛保三年亥季八月廿八日」との墨書銘が現われました。台石の銘にある7月12日は、まだ石搗きの最中だったのです。しかもボーリング調査の結果、この柱の部分は、地盤が最も軟弱なこともわかりました。勘六爺さんが人柱になろうと決意したのもうなずかれます。人柱は事実だったのです。

そしてこの事件を契機に、如来堂の工事は急速に進展しました。翌年には上棟式が行われ、5年後には竣工しました。当時、勘六爺さんの功績を讃えるために松が植えられました、その後、松は枯れたため、根だけを残して通天橋の前に安置されています。

お知らせ

季節の花を生けてみませんか

寺内町の館でお子様も一緒に親子で生け花教室を開催します。

◆5月より第二・第四土曜日

◆寺内町の館　午前10時～11時30分

詳しくは、寺内町の館　☎232・6666